

秋まきタマネギ栽培に適する品種と栽培上の留意点

【1 成果概要】

- 岩手県では春まきタマネギの栽培面積が急増していますが、収穫時期の前進や機械装備の有効活用等の観点から、秋まきタマネギの安定生産技術も春まき同様に現場から求められています。本県の秋まき栽培向け品種は‘七宝甘70’と‘ラッキー’しか示されていません。そこで、県中北部の秋まき栽培に適する品種、ならびに育苗期における被覆肥料の有効性について明らかにしました。
- 秋まき中晩生品種‘もみじ3号’は腐敗球や抽だいが安定して少なく、岩手県中北部の栽培に適します。過半数倒伏日は‘七宝甘70’より4日程度遅く、‘ラッキー’より3日程度早くなります(表1)。
- ‘もみじ3号’において育苗培土に被覆肥料を混和すると、欠株率が減少し1球重が増加するため、商品収量が増加します(表2)。



図1 品種‘もみじ3号’

表1. 秋まきタマネギ品種試験結果(2015-2018年産 県北農業研究所)

品種名	早晩性	2015年産～2018年産の平均値						
		過半数倒伏日	1球重(g)	欠株率(%)	抽だいら率(%)	腐敗球率(%)	裂皮率(%)	商品収量(t/10a)
もみじ3号	秋まき中晩生	6/23	207.6	3.7	0.2	0.2	5.2	4.11
七宝甘70	秋まき中生	6/19	251.3	7.7	2.6	2.9	17.3	3.95
ラッキー	秋まき晩生	6/26	236.2	4.6	1.4	6.5	5.2	4.31

表2. 育苗培土への被覆肥料混和が収量等に及ぼす影響(2016-2018年産 県北農業研究所)

被覆肥料の有無	2016年産～2018年産の平均値						
	過半数倒伏日	1球重(g)	欠株率(%)	抽だいら株率(%)	腐敗球率(%)	裂皮率(%)	商品収量(t/10a)
マイクロロングトータル2%混和	6/23	202.7	4.4	0.3	0.0	6.1	3.96
混和なし	6/25	125.6	8.9	0.0	0.6	2.5	1.95

※品種:もみじ3号。マルチ被覆なし。

【2 効果】

- 本県産タマネギの安定供給に寄与します。

【3 留意事項】

- (1) 育苗はパイプハウス内で行い、448穴ポットを使用して培土は‘くみあいネギ専用培土’を用いました。また、被覆肥料はマイクロロングトータル280100日タイプを使用しています。
- (2) 播種は8月20日過ぎ、定植は10月10日前後に行い、追肥は3月中旬から4月中旬にかけて3回実施しました。なお、マルチは被覆していません。また、病害虫防除は計4回実施しています。
- (3) ‘もみじ3号’種子は県中北部の播種適期である8月20日頃の入手は難しいため、前年度中に種子を確保し、播種まで冷蔵保存するよう心がけてください。
- (4) 詳細につきましては、「平成30年度試験研究成果」をご覧ください。

【4 適応対象】

- (1) 地帯 県中北部
- (2) 対象者 営農指導者(農業普及員等)